

(2) 令和5年度 普通科改革に係る活動年表

| 月 | 日 | 内 容 |
|-----|---|---|
| 4月 | 25 27 28 | 普通科改革事業推進委員会 第1回運営指導委員会 教育課程検討委員会 広報戦略会議 |
| 5月 | 30 31 | 広報戦略チーム打合せ 地域協議会 |
| 6月 | 1 9 10,11 12 14 27 | 普通科改革事業推進委員会 教育課程検討委員会 広報戦略チーム打合せ 地域みらい留学プラットフォームのオンライン合同学校説明会 現職教育 7月稲田氏による教員研修に向けての授業見学・情報交換 第1回宇宙教育検討会議 広報戦略チーム打合せ |
| 7月 | 12 13,14 14-16 18 20 22,23 30 | 現職教育 「発達に課題のある生徒の理解と支援」 講師：稲田氏 コーディネーター 対面研修①「協働体制構築の基本のキ」 (於：島根県民会館) 缶サット甲子園 学校運営協議会 教育課程検討委員会 地域みらい留学プラットフォームのオンライン合同学校説明会 天プラによる天体ワークショップ |
| 8月 | 9 19 20 22 26,27 28 29 | 普通科改革事業推進委員会 学校見学・説明会 天体観測会 宇宙シンポジウム in 串本 2023 コーディネーター オンライン研修① 「社会に開かれた教育課程と協働体制づくり」 地域みらい留学プラットフォームのオンライン合同学校説明会 教育課程検討委員会 普通科改革事業推進委員会 |
| 9月 | 8 15 20 22 23,24 | コーディネーター オンライン研修② 「総合的な探究の時間と新学習指導要領から進路へ」 第2回運営指導委員会 普通科改革事業推進委員会 普通科改革支援事業指定校発表会 地域みらい留学プラットフォームの対面合同学校説明会(東京) |
| 10月 | 5 12 | コーディネーター オンライン研修③ 「カリキュラム・マネジメント」 先進校視察 愛媛県立三崎高校 |
| 11月 | 1,2 2 9 13 | 文化祭 学校運営協議会 第2回宇宙教育検討会議兼コンソーシアム会議 事前会議 朝日新聞社の提案による京都産業大学(河北氏)との連携授業 現職教育 「星空を活用した持続可能な観光地域づくり」 講師：尾久土氏 |

| | | |
|-----|-------|---------------------------------------|
| | 17 | 第2回宇宙教育検討会議兼コンソーシアム会議 |
| | 28 | 先進校視察 宮崎県立飯野高校 |
| | 29 | 先進校視察 大分県立国東高校 |
| 12月 | 1 | 愛知県立美和高等学校の来校視察 |
| | 11 | コーディネーター オンライン研修④「協働論と学習論」 |
| | 12 | 探究学習についての研修会（講師 N高企画部 鈴木氏） |
| | 25 | 先進校視察 報告会 |
| 1月 | 9 | 教職員現職教育「日々の授業を充実させるための工夫・心がけ」 |
| | 10 | コーディネーター オンライン研修⑤「社会資源、地域資源の発掘活用方法」 |
| 2月 | 7 | 「宇宙探究コース」「地域探究コース」全国募集生対象 特色化選抜試験 |
| | 20 | 総合的な探究の時間 学年別成果発表会 三重県立相可高等学校の来校視察 |
| | 21,22 | コーディネーター 対面研修③、全国フォーラム（於：文部科学省会館） |
| | 28 | 地域協議会 |
| 3月 | 6 | 第3回宇宙教育検討会議兼コンソーシアム会議 |
| | 11 | 一般選抜試験 |
| | 15 | 学習成果発表会 |

(3) 事業推進体制

① 学内組織

本事業を進めるにあたり、校内に以下の2つの委員会を設置し、事業の推進・評価等を行った。

【普通科改革事業推進委員会】

本事業を直接担当する部署。事業全体の管理に係り、教頭を長として、総務部長や学年主任、教科の代表者、企画に関わった教員及びコーディネーターで構成する。定期的に会を持ち、事業の推進役を担うとともに事業進捗評価を行い、事業全体を管理する。またこの組織の下に、進路指導部長を長としてコーディネーターと連携しつつ外部機関等（運営指導委員会、コンソーシアム）との連絡調整を行う部署、および生徒指導部長を長とした成果物の発行や発表会を行う部署等、全職員で事業の役割を分担して事業を推進した。

【教育課程検討委員会】

令和6年度入学生からの新たな普通科設置に向けてのカリキュラム編成や、学校設定教科・科目の内容の調査研究を行う。教務部長を長とし、教科の代表者やコーディネーターで編成された組織で、外部組織の意見を反映させつつ、新たな教育課程などの編成・開発を行う。

② 学外組織

本事業を外部から運営・点検するための組織として、昨年度から引き続き次の4つの会議を設置した。

- a コンソーシアムの会議（宇宙教育検討会議）
- b 運営指導委員会
- c 地域協議会
- d 学校運営協議会

以下に、そのそれぞれの会議の趣旨や構成と今年度の会議実績を述べる。

a コンソーシアムの会議（宇宙教育検討会議）

県内外の高等教育機関や企業等の有識者でコンソーシアムを構成し、様々な連携・協力のもとで事業の検討を行った。その構成員は次のとおりである。

| 所属・役職等 | 氏名 |
|--------------------------------------|--------|
| 東京大学大学院工学系研究科教授（航空宇宙工学） | 中須賀 真一 |
| スペースワン株式会社最高顧問/取締役 | 遠藤 守 |
| Space BD ㈱代表取締役社長 | 永崎 将利 |
| 宇宙航空研究開発機構 研究開発部門 第一研究ユニット 研究領域主幹 | 河本 聡美 |
| 和歌山大学 理事・副学長 | 尾久土 正己 |
| 和歌山大学教育学部 教職大学院 教授 | 富田 晃彦 |
| 串本古座高等学校地域協議会 会長（串本町長） | 田嶋 勝正 |

それぞれ各界で活躍する方々であり、宇宙に関連する諸活動に関する知識や経験が豊富である。また宇宙探究コースを含む本校改革にも理解があつて、魅力的な新しい学校づくりに大きな力を与えている。現段階では、年3回の検討会議に出席し助言や提案を行うといった協働体制が中心だが、会議資料の作成をとおして計画の詳細が点検でき、かつそれに対する適切な助言で質の高い活動計画を築くことができた。次年度に新カリキュラムの運用が始まった後は、単に助言にとどまらず、個別の具体的活動でオンラインもしくは実働での協力をさせていただく予定である。

本年度の検討会議は昨年同様3回開催した。いずれもオンラインである。

第1回宇宙教育検討会議 6月14日(水)

この会議はコンソーシアムのうち串本町長を除いたメンバーで、主に昨年度策定した3コースのカリキュラムのうちの宇宙に関連する学校設定科目について、その具体的活動内容の検討を行った。図3の教育展開表のうち、令和6年度に実施されるのは宇宙探究コース新入生を対象とした高校1年生の「宇宙探究基礎」だけなので、この会議では特にこの1科目に絞って具体的活動内容及びシラバスを詳細に検討した。

会議で提示した「宇宙探究基礎」の具体的活動案は下のとおりである。1年間をとおして主に5テーマほどの活動を、どれも探究学習的展開を意識しながら構想を立てた。すなわちどのテーマも最初にガイダンス及び問題提示を行い、続いて班で話し合つて仮説を立てたりそれに基づいて実際に調べたりした上で結果及び考察にたどり着けるよう数時間ほどの時間枠をとっている。各テーマには番号を振っているが、この順番どおりに行うものではない。

対象：宇宙探究コース1年、地域探究コース2年

内容：1 宇宙実験に挑戦

2 水ロケットのミッション（定点着地／非破壊回収／最長飛行時間）コンテスト

3 身近な材料で作るマイ望遠鏡

4 天体観測と天体写真に挑戦

5 宇宙飛行士トレーニング体験（ホワイトパズルほか）

この構想の提示に対して、検討会議で各委員から出た意見は要約すると次のとおりである。

○各活動を行いながら、生徒と一緒に「手引き書」のようなものを作るとよい。

次年度以降の参考になるし、全国に情報発信すれば評判の取り組みになる。

- 各活動を行う前に、宇宙に関連することがらは文系も含めて様々あることやそれぞれの活動が宇宙とどのようにつながっているか、ガイダンスを行うとよい。
- 各活動でコンテストのルールや条件なども生徒に考えさせるのはどうか。
- チームビルディングの要素を取り入れる。
- 計測や観測の要素も入れて、奥行きのある考察につなげる活動も行えたらよい。
- 既存の教科で関連する内容は、教科で積極的に掘り下げ、連携を充実させる。

第2回宇宙教育検討会議兼第1回コンソーシアム会議 11月17日(金)

この会議は串本町長も加えた全コンソーシアムが参加し、宇宙教育検討会議兼コンソーシアムの会議として協議を行った。コンソーシアムのほとんどが宇宙関係の専門家なので、これまでこの会議は宇宙探究コースの開設に絞った検討を行ってきたが、本校の改革は宇宙だけではなく「宇宙探究コース」「文理探究コース」「地域探究コース」の3コースある。そのためこの会議では「宇宙」以外の2コースも含む学校全体の改革についての協議を串本町長も交えて行った。幸い宇宙の専門委員も、学校全体を知った上で宇宙を考えた方がより俯瞰的に本校の教育活動を考えることができるのでよかった、と評価された。

会議の主なテーマは第1回宇宙教育検討会議で取り上げなかった「宇宙探究基礎」以外の5つの学校設定科目「宇宙ビジネス探究」「宇宙航空工学」「宇宙観測と活用」「衛星データと活用」「宇宙と国際理解」の具体的内容、及び宇宙探究コース以外の文理探究コース・地域探究コースの2コースの学校設定科目「地域探究」「南紀デュアル」「紀伊半島探究α」「文化共創探究」「観光経済」「ジオパーク学探究」「聞書人物探究」「水産生物探究」「紀伊半島探究β」「南紀食文化探究」について説明し、各委員から意見を募った。

- 「・・・探究」と名のついた学校設定科目が多くある中で、「総合的な探究の時間」は何をするのかと質問があり、探究学習の基礎的な事項、すなわち探究の方法や調べ方、発表の仕方などを試行錯誤しながら学ばせると回答した。日本の教育では知識が身についても「問題解決の意識」が育たないという指摘があるが、総合的な探究の時間がうまく機能して知識を応用して問題解決にあたり、知識を学ぶ意味が伝わればよいとの指摘を受けた。
- 宇宙というのはこれまで学校になかった文化だと思うが、担当教員だけでなく、学校全体に宇宙や改革に対する意識が浸透していくよう工夫がほしい。
- それぞれのコースで異なるカリキュラムだが、コースを越えて学年の生徒たちが一緒に考えたり行動できる場面がほしい。様々な能力や背景を持った生徒集団がその多様性を生かしてより高度な問題解決をすることがこれからの社会にとって必要な力である。
- 宇宙とSDGsを絡めた活動を考えてほしい。
- 各委員から提案された来年度以降の協働のプランとしては、夏休み等を使って大学院生をチューターとして連れていき、高校生に短期集中講座として条件付き水ロケットや缶サット電子回路の作成や実験・研究をさせる。あるいはオンラインで課題を出し、ある期間学校で各自取り組ませ、その結果をオンラインで発表させ、評価する。テーマとしては「宇宙観光・ビジネス」「スペースデブリの回収法」「天文に関する小研究と国際交流会での発表」「夜の明るさの測定と衛星データの比較」など。

b 運営指導委員会

運営指導委員会は、学校教育に専門的知識を有する者、学識経験者、関係行政機関の職員等によって組織し、本校の新たな普通科の設置に係る調査研究に対して、専門的見地や地域の視点から指導、助言、評価にあたる。今年度の構成員は次のとおりである。

| 所属・役職等 | 氏名 |
|--------------------|--------|
| 串本町教育委員会教育次長 | 濱地 弘貴 |
| 串本町教育委員会指導主事 | 津田 和昭 |
| 古座川町教育委員会教育課長 | 洞内 宏文 |
| 古座川町教育委員会指導主事 | 井上 孝弘 |
| 和歌山大学 理事・副学長 | 尾久土 正己 |
| 和歌山大学教育学部 教職大学院 教授 | 富田 晃彦 |

今年度は4月と9月の2回、会議を行った。いずれも地域行政に係る委員については本校会議場に集合し、その他和歌山大学の両委員はオンラインによって参加した。また、県教育委員会等職員もオブザーバーとしてオンライン参加している。串本町・古座川町の行政関係委員の4名はそれぞれ地域教育の経験者として、あるいは一地域住民の視点から本校の改革事業について質問や提案を行った。また和歌山大学の両委員は、コンソーシアムとの兼任で宇宙教育検討会議にも参加しているので、特にこの会議では宇宙に特化せず、学校全体の改革、すなわち宇宙・文理・地域の各コースのカリキュラムや活動計画について、教育専門家の視点から提言を行った。一般的に会議というものは形式的なものも多いが、本会議は各委員のそれぞれの立場からの意見が、学校内部からは気づきにくい指摘を多く含んでいて、たいへん有益だったと感じる会議であった。

第1回運営指導委員会 4月27日

- この会議では主に令和4年度策定した3コースの新カリキュラムについて本校より説明し、それに関して協議を行った。その中で上がった意見としては、
- 宇宙だけが先走るのではなく、普通科改革の一つとして宇宙を位置づけたのはよかった。
 - 特設科目の授業は一コマごとの切り売りパッケージではなく、年間を通じたカリキュラムの構築が大事。設計にあたっては、チャレンジングで挑戦的なものを期待している。
 - これまで学校教育は基礎的な知識から徐々に発展的な内容を積み上げるという流れだったが、この方法は効率はいいものの、とかく我慢して勉強を強いることになりがち。順番を逆にして、先に「宇宙」や「地域」や「新しい社会」の素敵な話やワクワクするような活動をさせ、興味を持たせた上で「課題を解決するためにはどうしたらいい？」と投げかけて知識の収集につなげる方法もよい。
 - 理論先行ではなく体験重視でよい。先に実践させて興味を持たせて「何でやる？」をまず引き出させれば、通常の教科教育にもつながっていく。好きになれば自発的に理解しようとする。
 - 地の利を生かしてカリキュラムを作ってほしい。都会の学校では、教室でしか学べないことがほとんど。串本古座高校は地域資源を生かして自然の中で学べる体験ができる強みがある。
 - 子供たちの実態に合わせたカリキュラムを期待する。串本古座高校には幅広い子供たちが通学している。子供に合った部分が必要。全国で注目されている尖った部分と、子供たちの現状に合わせた部分の塩梅が肝。
 - 教科書もなく参考にするものがない新しいものを作り上げるのは困難だろうが、挑戦してほしい。
 - 地域の多くの方は、串本古座高校の取組に期待している。
 - 「宇宙を学ぶ」のは難しいかもしれないが、「宇宙をとおして学ぶ」というコンセプトがよい。

第2回運営指導委員会 9月15日

この会議では、第1回会議から当日までの本校の諸々の進捗状況、すなわち本年

度新しく着任した宇宙専門教員の活動や翌年度から始まる新学科入学生に対する宣伝・募集の取組について説明し、質疑応答を行った。特に地元の高校が大きく変わるということで地域行政の委員から質問が多く出たが、反応としては新しい学校への期待が多く聞かれた。この会議で上がった意見としては、

- 8/20 の「宇宙シンポジウム in 串本 2023」は生徒の発表が印象的だった。CGS 部（地域包括支援部）の活動をはじめとして、生徒が予想以上に元気だった。
- 地域の小中学校の課題は学力。高校もエスカレーター式で上がってだけでなく、学力を引き上げる何らかの工夫はないか。地域も高校も一丸となった取組ができれば。
- 本校の以前の大学進学率は悪かったので、上位層が他地域の高校に流れていた。現在はくろしお塾（校内に設置された公営塾）の健闘もあり進学率が上昇していることなど、中高で先生方の交流を密にして中学の先生によいイメージをもってもらえればよい。
- また小規模校ながらも多くのクラブ活動があり充実していることもPRするとよい。
- 両町は負担金を出してでも本校を守ろうとしているが、地域の人ほどだけの愛着を持っているか。他地域のある高校は町民に愛されていて、支援を惜しまない。本校も挨拶などきちんとし、地域に愛される学校になってほしい。
- 教え子が CGS 部に入って小学校の頃には想像もつかないような成長をした。部だけではなく学校全体の取り組みとして、自主性を伸ばす教育をして欲しい。
- 教員も地域を知る研修を行って、子供たちに郷土愛を教えてほしい。
- 地域に向けた情報発信の方法としては、SNS の利用も一つである。内容に精査は必要だが、生徒が発信するのもよいのでは。また地元の祭などにも積極的に参加して、あらゆる機会を利用するのがよい。
- 教員の一生の中で、このような大きな改革の機会はどうもめったにない。ぜひ教職員全員が楽しんで取り組んでほしい。「おもしろい！やってみよう！」という感情を伴う大きなうねりの中から、その学校の大切な校風が創られていく。
- 生徒も職員もおもしろいと思って取り組めていたら、周りからも「どうもおもしろい学校らしいぞ」と評判になるだろう。

c 地域協議会

本改革事業の支援を受ける前の平成28年度から、地元唯一の高校である本校を支援する地域組織を設置した。両町の出資によって創設され、両町の町長を会長、副会長とし、本校校長、両町議会、教育委員会、校長会、地域産業関係者等によって構成される。今年度の構成員は次のとおりである。

| 役職 | 所属 | 役職 | 所属 |
|-----|---------------|-----|---------------------|
| 会長 | 串本町長 | 委員 | 串本町商工会長 |
| 副会長 | 古座川町長 | 委員 | 古座川町商工会長 |
| 副会長 | 串本古座高等学校長 | 委員 | 南紀串本観光協会会長 |
| 委員 | 串本町議会 議長 | 委員 | 和歌山東漁業協同組合長 |
| 委員 | 古座川町議会 議長 | 委員 | 南紀森林組合長 |
| 委員 | 串本町教育委員会 教育長 | 委員 | JA 紀南 串本支所長 |
| 委員 | 古座川町教育委員会 教育長 | 委員 | JA みくまの 西向支所長 |
| 委員 | 串本町校長会長（小） | 委員 | 串本古座高校同窓会長 |
| 委員 | 串本町校長会長（中） | 委員 | 串本古座高校育友会長 |
| 委員 | 古座川町校長会長（小） | C N | 串本古座高校地域協議会コーディネーター |
| 委員 | 古座川町校長会長（中） | C N | 串本古座高校地域協議会コーディネーター |

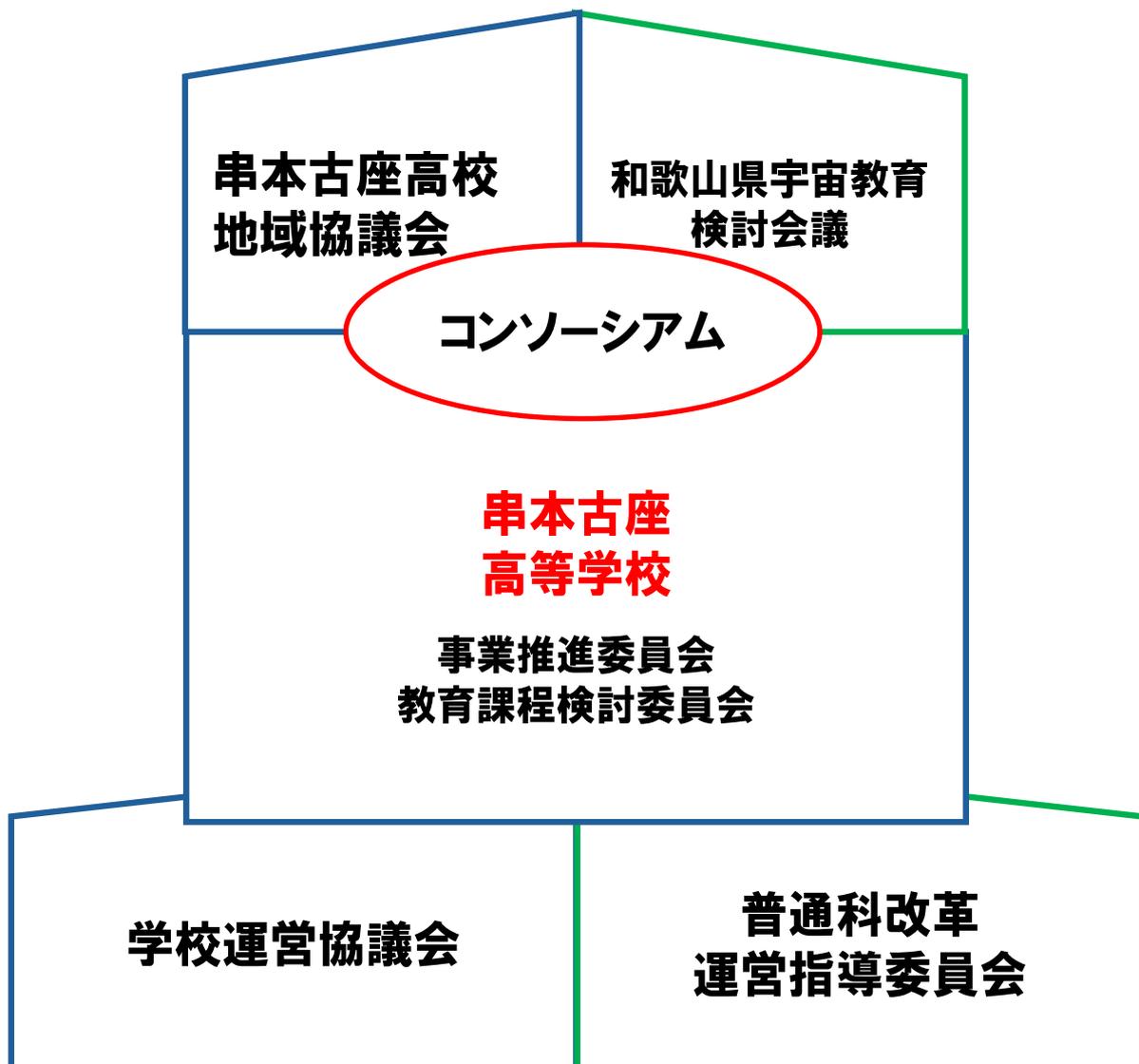
支援の柱は「魅力づくり支援」と「全国募集支援」である。特に「魅力づくり支援」については多額の町予算を投じており、「地域コーディネーター」の雇用と「公営塾

(「くろしお塾」)の運営を行っている。「地域コーディネーター」は「高校と地域」「高校と行政」を繋ぐなど、学校授業の編成に大いに貢献している。「公営塾」は毎年国公立を含めた難関大学合格者を出しており、高校との両輪で学力向上に貢献している。このように町と県の垣根を越えて県立高校の「魅力づくり」を支援しているのは全国的にも珍しく、もちろん和歌山県内では「唯一」である。また、地域協議会が雇用する「コーディネーター」を配置しているのも県内では唯一串本古座高校のみとなっている。

本年度第1回は5/31に予算関連の協議、事業計画の報告を行い、第2回は書面により計画等の報告を行った。第3回は、2/28に全国募集生徒の入学見込みや学科改編の概要について報告を行った。

d 学校運営協議会

「きのくにコミュニティスクール」の一環として、平成29年度から学校運営協議会(コミュニティスクール)を設置。先述の「串本古座高等学校地域協議会」が高校外部の組織として外から支援を行うのに対し、この地域運営協議会は高校内に設置している協議会であり、高校内部の「課題・問題への意見具申」や「高校運営へのアドバイス」などを行う組織である。本年度は7/18、11/2の2回の会議を持ち、昨年度や今年度の生徒募集の状況、普通科改革支援事業の経過と現状について説明した。時には授業参観や文化祭見学などを行いながら高校の現状把握に務め、「この高校のあり方」などの将来展望について意見交換を行うなど、内部組織としてこの学校の運営をサポートしている。



③ コーディネーター

本校では、平成 29 年のグローバルコース設置に際し、地域と学校をつなぐ担当者として地域コーディネーターを 2 名置いてきた。これは先述の地域協議会の採用による元自治体職員で、不定期の非常勤として高校職員室に席を置いている。グローバルコースの学校設定科目（南紀自然文化探究など）で地域の組織・人と学校との連絡・調整にあたり、地域と連携した諸活動の世話役をしたり、会議の主催や地域協議会の会計の管理を行ったりしている。地域の人材や企業、名所などを知り尽くした職員であるだけに、学校が地域と連携した魅力的な学習を展開するのに欠かせない存在となっている。具体的な活動としては、

1. 地域協議会の設置母体である串本町と古座川町（以下、「両町」）との予算折衝、年間活動計画協議、将来計画検討
2. 全国募集活動における高校との協働
3. 高校の「魅力づくり支援」

を 3 つの柱としている。

全国募集活動としてはオンラインによる学校説明と、都市部に出向いての対面式の学校説明を実施。本校と串本地域を、「教育」「生活」「地域交流」などの分野から説明し、学校訪問に繋いでいる。卒業生を含めこれまで 30 名が本校に入学しており、現在 17 名が在籍し勉学に励んでいる。早く地域での生活に慣れるように「生活」や「地域交流」などの面もコーディネーターがアドバイスやサポートをしている。

また、県外からの生徒にこの地域をより知ってもらうべく、この地域ならではの「ポンカン収穫体験」「釣り体験」「トルコ料理づくり体験」などを企画して、一緒に行動をしながら生徒の日常生活や串本での思い出づくりを支援している。

魅力づくり支援活動としては、役場在職中の人脈を使って授業講師を発掘し、高校に紹介している。地域協議会が校内に設置している「公営塾（愛称：くろしお塾）」の「地域みらい学」においても、和歌山大学や和歌山県立医科大学などとのパイプを活かして、講師を発掘する「高校と大学の繋ぎ役」も務めている。

地域コーディネーターの役割は幅広い「人のネットワーク」によって支えられていると言っても過言ではない。コーディネーターの役割を一言で表すならば「つなぐ」という言葉が適切と言えるだろう。

また本校は、巻頭で述べたように令和 4 年度に普通科改革推進事業指定を受けたのに伴い、上述の 2 名に加えて新たにこの改革事業を主に担当するコーディネーターを県教育委員会の採用で 1 名置いている。新しく開設する宇宙探究コースの準備に対応できるように、宇宙や物理に精通した教育経験者を採用した。主に宇宙探究コースの内容検討や総合的な探究の時間の展開等に補助や助言をしたり、コンソーシアム等外部機関との連絡調整を担当している。特に本年度は、後述の宇宙専門教員と協力して次年度から始まる宇宙探究コースの科目内容検討などを行ったり、校外での天体観測会を企画したりした。また、本改革事業に伴うコーディネーター研修への参加や、諸々の調査研究もこのコーディネーターの職務である。

(4) 宇宙専門教員

本校の普通科改革事業の大きな取組の一つに宇宙探究コースの創設があるが、これには宇宙関連の知識や経験豊富な人員が必要である。しかし本校は従来理系科目希望者が少なく、またこれまで行ってきたグローバルコースの取組も海洋・地質や生物関係が中心で、宇宙や物理に精通した教員が不足していた。

そのため、宇宙探究コースの創設にあたり、和歌山県行政機関が中心となって、JAXA など宇宙関連業界等で活躍してきた人員を 1 名、令和 5 年 4 月より教員として本校に新たに配置した。

① 略歴

日本大学理工学部航空宇宙工学科卒（専門は流体力学）

公益財団法人日本宇宙少年団（YAC）で青少年に対する宇宙教育普及業務を行い、